

## 超レア・貴重なムカシトンボ



ムカシトンボ。体長約50 mm。黒と黄色の縞模様がある。  
4月から6月に発生。

(進 基氏 収蔵標本)

和名で「ムカシ」と名前がつく生き物をいくつ知っていますか？

ムカシガエル(カエル)、ムカシエビ(エビ)、ムカシタモト(貝)、ムカシトカゲ(トカゲ)、ムカシハナバチ(ハチ)、ムカシゲンゴロウ(ゲンゴロウ)などいろいろな生き物で知られていますが、実は昆虫のトンボに「ムカシ・・・」とつくものが多いです。ムカシイトトンボ科、ムカシカワトンボ科、ムカシトンボ科、ムカシヤンマ科です。これは、トンボの発生と進化に関係があります。トンボは古く約3億年前の古生代石炭紀頃から発生し、中生代三畳紀・ジュラ紀を経て今の系統に分かれました。恐竜のいた頃にはすでに、今のトンボの系統は完成し、その形態は多少の変異を伴いながらも現在まで引き継がれています。このように今いるトンボも化石といえるかもしれないのですが、これらの中でもより古い原始的な形態を持っているものに「ムカシ」という名をつけています。

さて、ムカシと名がつくトンボのうち、日本にはムカシトンボとムカシヤンマ2つの科が生息しています。北海道に生息し、かつ、斜里町にも生息しているものはムカシトンボ科のみです。ムカシトンボ科は日本に1種のみ、ヒマラヤと中国東北部でそれぞれ1種見つかっているだけのとても貴重なトンボです。日本の固有種で、地域によっては絶滅危惧種として扱われています。もう1種のムカシヤンマは日本に1種のみ、北海道と四国には生息しておらず、世界でも10種ほどしかいません。こちら国内固有種で地域によっては絶滅危惧種として扱われています。

両者とも生態が興味深く、ムカシトンボは冷涼な清流にのみ生息していて、幼虫で5～7年(トンボの中では最長)過ごし、溪流の石などにつかまって生活します。そして、羽化する1ヶ月前には水から出て湿った落ち葉の下で過ごします。成虫はとにかく素早く飛翔し、縄張りを誇示します。ムカシヤンマは山地や丘陵の低水温できれいな水質の場所に生息し、幼虫は水中で生活することは滅多になく、湿ったコケの中に穴を掘りその中で生活します。3年ほど幼虫で過ごし、成虫になります。ほかのトンボは1年で成虫になるものが多い中で、これら2種は特殊です。

ムカシトンボは全国に生息していますが、個体数が少なく貴重な種である理由は、山間の限られた水辺にのみ生息可能で、河川改修や砂防ダムなど人口建築物の影響を非常に受けやすく、絶滅の危機に瀕している仲間のようなようです。また、彼らは氷河期の生き残りとなされ、地球温暖化などの劇的な変化には順応できない脆弱な一面も持っています。

知床でのムカシトンボの生息は確認されていますが、その分布範囲はよくわかってはいませんが、河川改修などの開発行為が行われそうな場所では、一日も早い分布調査が急がれます。(松田 功)

発行 知床博物館協力会 2014.5.27  
099-4113 北海道斜里郡斜里町本町49  
斜里町立知床博物館内  
TEL: 0152-23-1256 FAX: 0152-23-1257  
NEW! <http://shiretoko-ms.sakura.ne.jp/>